様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０８５９

研究課題名（和文）オスマン帝国における教育の連続性と変化（１９世紀～２０世紀初頭）

研究課題名（英文）Continuity and Change in the Education in the Ottoman Empire during the Nineteenth and the Early Twentieth Centuries

研究代表者
秋葉　淳（AKIBA, JUN）

千葉大学・人文社会科学研究科（系）・准教授

研究者番号：００３７５６０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,800,000円、（間接経費）　1,140,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀から20世紀初頭にかけてのオスマン帝国における教育について、その実態的・社会的側面に焦点を当てて連続性と変化を明らかにすることを目的とした。その主たる成果は、オスマン帝国と隣接地域のムスリム社会における教育と出版について比較史的観点から検討した論文集である。論集は11章からなり、国家的な教育改革だけでなく、伝統的なイスラーム教育の変容、非ムスリムの教育、国境や宗派の差異を超えた出版文化などについて包括的に論じている。そのほかに、女子学校と女性教師に関する研究や、オスマン公立学校の歴史教科書の分析、識字教育についての考察などに関して成果を得た。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to explore continuity and change in the education in the Ottoman Empire during the nineteenth and early twentieth centuries focusing on the actual conditions and the social aspects of education. As a main outcome of this project, we have prepared a collected volume on the school education and print culture in the late Ottoman Empire and the neighboring Muslim societies with a comparative perspective. The volume comprises eleven chapters, including contributions on the change in the tradition of Islamic education, the education of non-Muslims and print culture across the border or the confessional divide, as well as the educational reforms in the Ottoman state. Other results include new findings on girls' schools and female teachers in pre-Tanzimat Ottoman society, an analysis of the Ottoman history textbooks and a study on literacy education.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：西アジア・イスラーム史　オスマン帝国　教育史　比較・交流史

１．研究開始当初の背景

オスマン帝国においては、18 世紀末以降の近代化改革に伴って、ヨーロッパの制度を取り入れて、エリート養成や臣民の教化を目的とする新式学校制度が設立されたが、その一方で、従来のイスラーム教育を目的とする学校も存続した。近年、オスマン帝国改革期の教育に関して、新しい視点を取り込んだ研究がなされているが、旧来の学校は対象外となり、連続性や変化を十分に捉えきれていない。また、学生や生徒の出自に関する研究や、教えられた教科や教育法など具体的側面に関する研究も十分ではない。

そこで、本研究は、旧来のイスラーム教育機関と新式学校双方を視野に入れつつ、教育の実態的・社会的側面を探究することを意図して計画された。

２．研究の目的

本研究は、19 世紀から 20 世紀初頭に至るまでのオスマン帝国における教育について、その実態的側面の変化と連続性に焦点を当てるものである。具体的には、旧来のイスラーム教育機関と近代化改革によって導入された新式学校双方を対象として、教育の内容や方法、ならびに、教育の受容者に着目して、その変化と連続性を検討する。二つのアプローチをとることによって、単なる制度史を超えて、教育が社会にもたらした影響を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

(1) 本研究は、一次史料にもとづく実証的な歴史研究である。そのため、当時の教科書、法令、統計、定期刊行物などの同時代の刊行文献とともに、政府内で作成された公文書が主たる史料となる。これらを収集し、分析することが最も重要な方法である。

(2) 教育を通じた人々の移動やネットワークの形成を研究するために、実地調査を行った。調査地は、アナトリア南部の町イブラドゥとその近隣の村ギョデネとオルマナなどである。

(3) 連携研究者、研究協力者と連携・協力する体制をとり、共同研究を行った。研究会を開催しながら意見交換を行い、最終的に論集という形にまとめた。

(4) オスマン帝国の教育史を世界史的視野から検討するために、比較史の手法を取り入れた。比較教育社会史研究会と連携し、また、他地域の研究者を研究協力者に加えて、他地域との比較や連関について積極的に意見交換を行った。

４．研究成果

計画当初は研究代表者と、1 名の連携研究者、2 名の研究協力者からなる小規模の共同研究を構想していたが、最終的に、10 名近くの研究協力者に加わってもらい、一冊の論集を刊行するに至った。その意味で、期待以上の成果が挙げられたと言える。

代表的な成果は、以下の通りである。

(1) 論集『近代・イスラームの教育社会史』の刊行（2014 年 5 月現在印刷中）（図書①～⑪）

本書は、研究代表者が橋本伸也氏と共同で編集した、オスマン帝国を中心とする中東・イスラーム地域の近代を対象とする教育社会史の論集である。本書では、「教育」を社会における知識の伝達や継承の問題として広く捉え、狭義の学校や教育のみならず、出版のもたらした社会的影響についても扱っている。日本における教育史の分野では、これまで中東・イスラーム地域がほとんど視野に収められてこなかったため、この地域の教育と出版に関する問題を包括的に扱う本書は、画期的な意味をもつであろう。

三部構成で序章と終章を加えて 11 章から成り、編者 2 名と連携研究者の小笠原弘幸に加えて他 6 名の研究協力者によって分担執筆されている。本書の特徴は、近代的学校教育制度の導入についてのみならず、イスラーム教育やイスラームの知的伝統の近代における変容を論ずる点（図書②、⑤）、非ムスリムの教育や出版についても扱う点（図書⑥、⑦、⑩）、そして、オスマン帝国と近接するロシア領ヴォルガ・ウラル地域のムスリムと、ハプスブルク帝国占領下のボスニアのムスリムにおける教育改革に関する論考（図書⑧、⑨）も収めるなどして、他地域との比較や連関を考察した点（図書⑩、⑪）であると言える。各論考には学会の最新の研究動向が反映されており、オスマン帝国の教育・出版に関して新しい像を提供できたのではないかと考えている。

(2) オスマン帝国近代教育史の比較史的考察

19 世紀から 20 世紀初頭までのオスマン帝国教育史を、同時代の世界史の中に位置づけて考察することは、本研究の遂行においてとくに意識されていた点であり、(1) で挙げた論集もその成果である。そのほかの代表的な業績としては、ヨーロッパ及び日本の教育社会史研究者との合同研究集会の成果として、福祉国家と教育という問題系の中にオスマン帝国教育史を位置づけて論じた図書⑫がある。

(3) オスマン帝国の女子教育に関する研究（雑誌論文①、学会発表⑨）

新史料の発掘によって、タンズィマート期の教育改革以前から、イスタンブルにおいて女子教育が普及していたこと、とくに女性教師が教える女子学校が多数存在していたことを明らかにした。これはタンズィマート期における女子高等小学校の設立などの改革へ連続する面もあるが、むしろ、教師の家で教えるような学びの場が学校と見なされなくなり、また、既存の女性教師の存在を基礎とせずに女子師範学校を設立するといった不連続性があることについても指摘した。

(4) オスマン帝国新式学校における教科書の研究

オスマン帝国の公立学校で使われていた歴史教科書を網羅的に調査することによって、タンズマート期、アブデュルハミト二世時代、第二次立憲政期のそれぞれにおけるその特質を、内容面と形式面の双方から明らかにした（図書④、学会発表⑤、⑩、⑬、⑮）。また、地理教科書を分析して、オスマン帝国の領土がどのように描かれていたのかを明らかにした（学会発表㉓）。

(5) 地方社会における教育志向に関する研究

18 世紀以来カーディー（裁判官）を輩出し、19 世紀後半以降は、新しい制定法裁判所制度における司法職や、地方行政官職などにも人材を供給したアナトリア南部の町イブラドゥとその近隣の村ギョデネについて、現地調査や人口台帳資料などの分析から、この地域の人々がどのような教育や訓練を経て官職を得ていたのかを明らかにした（学会発表④）

(6) 識字と読書に関する研究

オスマン帝国の伝統的な初等学校における「読み」と「書き」の位置づけを、同時代のヨーロッパとも比較しつつ考察し、19 世紀に入って、ベル＝ランカスター教授法が導入されるなどして識字教育の重要性が高まっていった明らかにした（図書②、学会発表㉒）。

また、シャリーア法廷台帳などを史料として、イスラーム法学書の流通の地域的な差異に着目し、法解釈、法文化の地域差について考察した（学会発表①、②）。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①<u>秋葉淳</u>「タンズィマート以前のオスマン社会における女子学校と女性教師：18 世紀末～19 世紀初頭イスタンブルの事例から」『オリエント』56(1), 2013, 84-97.（査読有）

②長谷部圭彦「オスマン帝国の「大学」：イスタンブル大学前史」『大学史研究』25, 2013, 83-102.（査読有）

③Kiyohiko Hasebe（長谷部圭彦）, “An Ottoman Attempt for the Control of Christian Education: Plan of Funun Mektebi (School of Sciences) in the Early Tanzimat Period,” *The Journal of Ottoman Studies*, 41, 2013, 231-251.（査読有）

④佐々木紳「オスマン帝国と中央アジア：アリ・スアーヴィーのまなざしから」『海外事情』60(9), 2012, 49-60.

〔学会発表〕（計 23 件）

①<u>秋葉淳</u>「18 世紀オスマン帝国における法の適用と法学書の流通—アナトリアにおける地域的多様性」日本オリエント学会第 55 回年次大会（京都外国語大学，2013 年 10 月 27 日）

②<u>Jun Akiba</u>, “Uniformity and Diversity of Legal Practices in Late Eighteenth-Century Ottoman Anatolia: A Case Study on the Issue of Missing Husbands.” 第 47 回北米中東学会年次大会 The 47th Annual Meeting of the Middle East Studies Association（米国, ニューオーリンズ, 2013 年 10 月 12 日）.（査読有）

③長谷部圭彦「オスマン帝国から眺めた学制：学制（1872）と公教育法（1869）」第 1 回イスラム文明史学研究講演会（招待講演）（九州大学，2013 年 10 月 12 日）.

④<u>秋葉淳</u>「カーディーの町、カーディーの村—18 世紀～19 世紀初頭オスマン社会における支配者層参入の道」日本中東学会第 29 回年次大会（大阪大学豊中キャンパス，2013 年 5 月 12 日）.

⑤<u>小笠原弘幸</u>「「愛国」なき国民史：オスマン帝国アブデュルハミト二世専制下における歴史教科書の分析」日本中東学会第 29 回年次大会（大阪大学豊中キャンパス，2013 年 5 月 12 日）.

⑥高橋圭「スーフィズムの知と実践の変容：エジプトの事例から」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫，2012 年 12 月 9 日）.

⑦磯貝真澄「ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域の「新方式」教育」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫，2012 年 12 月 9 日）.

⑧島田志津夫「ブハラおよびロシア領トルキスタンにおけるムスリム教育改革運動：その起源と展開」NIHU プログラム・イスラーム

地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫，2012 年 12 月 9 日）.
⑨秋葉淳「タンズィマート改革以前のオスマン朝イスタンブルにおける女子学校と女性教師」日本オリエント学会第 54 回大会（東海大学湘南キャンパス，2012 年 11 月 25 日）
⑩小笠原弘幸「オスマン帝国タンズィマート期における歴史教科書と歴史教育」日本オリエント学会第 54 回大会（東海大学湘南キャンパス，2012 年 11 月 25 日）.
⑪上野雅由樹「帝国末期オスマン・アルメニア人の学校選択」比較教育社会史研究会 2012 年秋季例会「イスラームと教育」部会（青山学院大学渋谷キャンパス, 2012 年 10 月 28 日）.
⑫藤波伸嘉「アラブ人とトルコ人：青年トルコ革命のメディア、政治、ナショナリズム」比較教育社会史研究会 2012 年秋季例会「イスラームと教育」部会（青山学院大学渋谷キャンパス，2012 年 10 月 28 日）.
⑬小笠原弘幸「近代オスマン帝国における歴史教育の実相：その近世性にもふれて」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「近世イスラーム国家と多元的社会」2012 年度第２回研究会（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2012 年 10 月 27 日）.
⑭長谷部圭彦「帝国のなかの女性と学校：19 世紀オスマン帝国の場合」科学研究費補助金基盤研究（S）「ユーラシアの近代と新しい世界叙述」研究会（東京大学，2012 年 10 月 27 日）.
⑮小笠原弘幸「教科・学問としての歴史：オスマン帝国の場合」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫，2012 年 6 月 16 日）.
⑯米岡大輔「ハプスブルクとオスマンの間で：ボスニア・ムスリム知識人の教育改革論」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫，2012 年 6 月 16 日）.
⑰平野淳一「想像のイスラーム共同体：出版メディアとイスラーム改革思想」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」（財団法人東洋文庫, 2012 年 6 月 16 日）.
⑱長谷部圭彦「オスマン帝国における教育改革と西欧モデル：伝播・参照・共時性」比較教育社会史研究会 2012 年春季例会（お茶の水大学，2012 年 3 月 25 日）.
⑲佐々木紳「多元社会の言論空間と公論形成：19 世紀オスマン帝国の場合」比較教育社会史研究会 2012 年春季例会（お茶の水大学，2012 年 3 月 25 日）.
⑳秋葉淳「オスマン帝国における近代国家の形成と教育・福祉・慈善」比較教育社会史研究会 2012 年春季例会（招待講演）（お茶の水大学，2012 年 3 月 24 日）.
㉑秋葉淳「オスマン帝国におけるベル＝ランカスター教授法の導入（1830－40 年代）」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「ベル＝ランカスター教授法の世界的流行：フランスとオスマン帝国」（財団法人東洋文庫, 2011 年 12 月 18 日）.
㉒前田更子「19 世紀前半フランスにおける民衆教育と博愛主義者」NIHU プログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点共催研究会「ベル＝ランカスター教授法の世界的流行：フランスとオスマン帝国」（財団法人東洋文庫，2011 年 12 月 18 日）.
㉓秋葉淳「19 世紀オスマン帝国における領土的編制と領土的想像力」新学術領域研究「比較地域大国論」第 4 班研究会（北海道大学スラブ研究センター，2011 年 7 月 9 日）.

〔図書〕（計 14 件）
①橋本伸也・秋葉淳（共編）『近代・イスラームの教育社会史』昭和堂，2014（印刷中）.
②橋本伸也・秋葉淳（共編），秋葉淳（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「「伝統教育」の持続と変容：一九世紀オスマン帝国におけるマクタブとマドラサ」昭和堂, 2014（印刷中）.
③橋本伸也・秋葉淳（共編），秋葉淳（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「オスマン帝国の新しい学校」昭和堂, 2014（印刷中）.
④橋本伸也・秋葉淳（共編），小笠原弘幸（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「歴史教科書に見る近代オスマン帝国の自画像」昭和堂，2014（印刷中）.
⑤橋本伸也・秋葉淳（共編），高橋圭（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「スーフィズムの知と実践の変容：エジプトの事例から」昭和堂，2014（印刷中）.
⑥橋本伸也・秋葉淳（共編），佐々木紳（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「ジャーナリズムの登場と読者層の形成：オスマン近代の経験から」昭和堂，2014（印刷中）.
⑦橋本伸也・秋葉淳（共編），上野雅由樹（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「アルメニア人オスマン官僚の教育的背景」昭和堂, 2014（印刷中）.
⑧橋本伸也・秋葉淳（共編），磯貝真澄（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域ムスリム社会の「新方式」の教育課程」昭和堂，2014（印刷中）.
⑨橋本伸也・秋葉淳（共編），米岡大輔（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「ハプスブルクとオスマンの間で：ボスニアの「進

歩的ムスリム」による教育改革論」昭和堂，2014（印刷中）.
⑩橋本伸也・秋葉淳（共編），藤波伸嘉（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「帝国のメディア：専制、革命、立憲政」昭和堂，2014（印刷中）.
⑪橋本伸也・秋葉淳（共編），橋本伸也（共著）『近代・イスラームの教育社会史』「オスマン・ハプスブルク・ロシア：帝国空間における知と学校の比較社会文化史への射程」昭和堂，2014（印刷中）.
⑫広田照幸・橋本伸也・岩下誠（編），秋葉淳（共著）『福祉国家と教育：比較教育社会史の新たな展開に向けて』「オスマン帝国における近代国家形成と教育・福祉・慈善」昭和堂，2013, 331(141-157).
⑬鈴木董（編），秋葉淳（共著）『オスマン帝国史の諸相』「オスマン帝国の制定法裁判所制度：ウラマーの役割を中心に」東京大学東洋文化研究所；山川出版社，2012，458(294-320).
⑭鈴木董（編），長谷部圭彦（共著）『オスマン帝国史の諸相』「オスマン帝国における「公教育」と非ムスリム：共学・審議会・視学官」東京大学東洋文化研究所；山川出版社，2012，458(352-376).

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
秋葉　淳（AKIBA, Jun）
千葉大学・大学院人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：00375601

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
小笠原　弘幸（OGASAWARA, Hiroyuki）
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：40542626

(4)研究協力者
長谷部　圭彦（HASEBE, Kiyohiko）
東京大学・大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター・客員研究員

佐々木　紳（SASAKI, Shin）
東京大学・次世代人文学開発センター・特任研究員

橋本　伸也（HASHIMOTO, Nobuya）
関西学院大学・文学部・教授

藤波　伸嘉（FUJINAMI, Nobuyoshi）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究機関研究員

上野　雅由樹（UENO, Masayuki）
大阪市立大学・大学院文学研究科・講師

高橋　圭（TAKAHASHI, Kei）
上智大学・イスラーム研究センター・研究員

磯貝　真澄（ISOGAI, Masumi）
京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師

米岡　大輔（YONEOKA, Daisuke）
日本学術振興会・特別研究員

前田　更子（MAEDA, Nobuko）
明治大学・政治経済学部・講師

平野　淳一（HIRANO, Junichi）
日本学術振興会・特別研究員

島田　志津夫（SHIMADA, Shizuo）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・特任講師